

関西大学『国文学』投稿規定

- 一、投稿者は、原則として関西大学国文学会会員に限る。
- 二、委員会の承認があった場合に限り、特例として、上記以外の者の投稿を認める。
- 三、投稿論文は、原則として四〇〇字詰め原稿用紙四〇枚以内とする。
 - 縦書き…一頁の書式を二十八字×二十行×二段とし十六頁以内
 - 横書き…一頁の書式を三十七字×三十二行とし十六頁以内
- 四、投稿論文の採否は、委員会で決定する。
- 五、投稿原稿の返却を希望する場合は、切手を貼った返信用封筒を添付すること。
- 六、掲載された原稿の著作権は執筆者が有する。ただし、原稿の二次利用としての電子化利用の権利は、掲載時点で執筆者が関西大学国文学会に許諾したものである。
- 七、論文掲載者は、別途定める掲載料を支払うものとする。

◇編集後記

『関西大学国文学』第一〇六号をお届けいたします。本号には、本学大学院生、本学修士生を主な執筆者とする十八編の研究論文を掲載しており、通常号ではありませんが、たいへん充実した内容となりました。コロナ禍中にあつて、フィールドワークや対面での研究会開催等に制限が生じる中でも、個々の研究活動の営みに停滞が生じていないことを心強く思います。

国語国文学専修では、二〇二一年四月に、中古文学の専任教員として松本大准教授をお迎えしました。新進気鋭の若手研究者としてご活躍の松本先生ですが、着任間もなく学生指導や専修運営にもおおいにご尽力くださり、専修内に新たな活力を注入していただいています。

二〇二一年度は、例年、学外での臨地研修の形で実施していた二、三年次生の専修行事を、学内での懇談会、オンラインを併用してのセミナーという形で実施いたしました。また、七月と十二月に開催した国文学会研究発表会は、いずれもオンラインでの実施といたしました。海外の学会員の参加も見られ、オンラインならではの研究交流を果たす機会となりました。こうした新たな交流形態を活かしながら、本学会が引き続き活発な研究交流の場となることを期待しています。

(水)